

東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故から2年半が経ちました。この間は、皆さまには故郷を離れて悲しみ・怒り・悔しさが溢れる途方もない苦悩の日々であることを考えますと、胸が締め付けられる思いです。

町は現在、避難生活での重要課題として、第一に住宅環境整備にあたっております。町外コミュニティの復興公営住宅の設置について避難先自治体、国、県との個別協議を進めております。自前の整備でなく、避難先での用地選定・用地確保であるため、裁量がなく「じくじ」たる思いですが、安全で安心できる利便性を持つ位置を希望し、一日も早く建設できるよう要望しております。

第二に、「どこに住んでいようと浪江町民」に立脚し、個人・家族の生活再建に向け「損害実態に即した賠償の責任ある確保」を要請してまいりました。その一環として、町が代理人となり原発ADRに集団申し立てを行い、14,793名の皆さまに参加いただきました。このADR申し立ては、東京電力に対し、加害者として誠意ある責務と賠償、国に対しては損害賠償紛争審査会の間指針の見直し（被害実態に即して）を強く訴えており、賠償の考え方を根本から改めることを要求しております。

第三に、健康管理についてです。これまで以上に放射線被ばくを注視し、健康調査・健康相談事業、リスクコミュニケーション事業を継続いたします。

第四に、先ごろ環境省より国直轄で行う町の除染計画（平成24、25年度で帰還困難区域を除き終了予定）を見直すとの説明がありました。これは「ふるさと再生」の工程にズレが生ずることが懸念され、元通りの社会基盤に戻すことに遅れが生ずることを意味します。いずれにしても、放射線量が年間空間線量1ミリシーベルト以下にするまで責任を持つて除染を続けるよう要請します。

第五に、町の復旧状況であります。地震・津波によるインフラの損壊について状況把握に努めました。その結果、町道の災害査定が終了し、今後は設計委託をし、順次復旧工事に入ります。上下水道においても管渠調査、放射線量（今でもモニタリング続行中）計測を行い、災害査定を急ぎたいと考えています。このような中、町内で3つの事業者が事業を再開し、ほんの少しずつですが前に進んでいる状態です。

最後に、浪江町民の絆を深める交流の場が、全国各地で好意あるボランティア各団体により開催されており、そのご厚情に敬意と感謝の念で一杯です。何卒、町民の皆さまには、浪江町民同士のコミュニケーションを強め連携をはかっていますので、イベント開催時には、ご参加くださるようお願いいたします。

すっかり秋めいてまいりました。朝晩の肌寒さを覚える今日、皆さまには、お身体を大切に各自愛くださるようお願いいたします。メッセージとします。

今月の表紙

南津島の田植踊り

— 南津島郷土芸術保存会

9月14、15日、いわき市小名浜港のアクアマリンパークで「ふるさと」の祭り2013」が開催され、町からは『南津島の田植踊り』と『大堀の神楽』の2団体が出演しました。

「津島の宝を残したい」

南津島郷土芸術保存会

会長 三瓶専次郎 さん

当日は台風のため、開催が危ぶまれましたが、避難生活の中で皆で一生懸命練習したことが、震災後初めて披露出来て良かったです。

代々受け継がれて来た伝統芸能ですが、放射線量が高い津島に帰れる見通しもなく避難生活が長引く中、若い人達への継承は難しい問題です。しかし、バラバラになりかけている今だからこそ、伝統芸能を通じ、南津島の人々の心を継いで行きたい。その心が少しでも若い人達に伝わればいいと思ひ、津島の宝を保ちたいと願っています。

■南津島の田植踊り■

五穀豊穡と無病息災を願って、その家々の四隅を清め神の降臨と鎮魂のために舞われ、旧正月にあたる1月の14、15日の両日、田植踊りに続いて家ごとに舞い込んでいました。獅子頭に頭をかんでもらうと、その年は病気になるまいと言われています。